

## ○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、私の質問を始めさせていただきます。

ことしも残すところあと21日となりました。これも受け取りようでは、まだ21日も残っているんじゃないかと言うことができるということを経験した1年でございました。

先週、ゴルフの石川遼君が最年少の18歳ということで賞金王に輝きました。本市では3年8カ月前に最年少市長が誕生いたしました。その共通点はいいますと、若さと実行力ではないかと思えます。目標に向かって果敢に挑む姿、これはどちらも頼もしく、これから武雄がおもしろくなりそうであります。ゴルフも武雄も元気になりそうな気がします。

そこで、違う点はと見てみますと、スポーツは1年か2年で結果が出せるということです。政治はそうはいかない。結果は5年、10年、20年とかかります。そこが違いだなということを感じたところであります。

ところで、樋渡市長は幸いにしてという言い方が適切かどうかと思えますけど、この4年の間に3回も選挙をやる機会に恵まれました。これも記録に残るのではないのでしょうかと思えます。ちなみに4ナンバーの商用車ですね、この車検は1年に1度、4年で4回の検査があります。そこで、樋渡市長は商用車扱いなのか。それもあると思えます。市長は、武雄市株式会社の社長兼トップセールスマンとしてよく働いたあかしであると私は高く評価しているところであります。このことは、後々武雄の力となること、これを私は確信するところであります。もうすぐ麦踏み季節でございますが、麦は踏まれて株を張ります。それにしても大変な1年でした。私たち議会も定数削減という事業仕分けを自分たちの手でやって1年を締めくくります。ことしの流行語大賞には政権交代が選ばれました。その政権交代は、今後この武雄にどう影響するのか、それを本市ではどう対処してこの難局を乗り切るのか、知恵を出し合ってピンチをチャンスとして生かせることもあると思えます。

さきの必殺仕分け人の仕分け作業、その中では、縮小、先送り、廃止、凍結、見直し等々の項目が目立つ中、本市の抱える事業計画の数々、新幹線、国道34号線、35号線、498号線、これらの交通網の整備や新工業団地の企業誘致、また、商工業、観光、新武雄病院、競輪事業や本市の経済発展に大きくかかわり影響を及ぼすものと考えられますが、政権交代における事業仕分けの内容を判断して、市民の待ち望んだ新幹線の望みについては、どのようにとらえておいでかをまず質問いたします。

## ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

新幹線につきましては、まずフリーゲージは議員御案内のとおり、さきの事業仕分けで概算要求どおり認められましたので、これがそのまま概算要求どおりいくというふうに思っております。そして、新幹線そのものについては、国交省がもう公の場で全国新幹線鉄道整備

法に基づき認可した武雄－諫早間については、平成29年度の開業をおくらせないよう事業を進めるともう明言をされておりますので、我が国はあくまでも法治国家でありますので、そこでなされたことは、きちんとされるというふうに思っております。

そして大前提は、政権交代があってもなくても耐え得るような自治体運営をするということが私は肝要だと思っておりますので、そういった意味で、民主党になって大分変わりました。さま変わりしましたけれども、それも冷静にちょっと判断をしながら、どうすれば私たちの思いが届くのかということは、議会と力を合わせて民主党政権、連立政権に話をしていく必要があるだろうと、このように認識をしております。

**○議長（杉原豊喜君）**

16番樋渡議員

**○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕**

事業仕分けの内容では、さほど影響はないという見解を示されたところでありますけど、私はそうは見えていないんですね。諫早－長崎間の未着工区間がありますよね。これは凍結ということだと思いますけど、これは大きな影響じゃないかと思うわけでありまして。交通網ということですね、交通網の整備ということで見ると、交通の網と書いてあります。その網の一部が抜けていたと、諫早－長崎間がですね。これは機能というのは半減するんじゃないかと思うわけでありまして。

例えば、高速道路を見てみます。鳥栖－佐賀間のときは交通量はまばらでした。後、武雄、長崎と開通したら渋滞するぐらい一遍に交通量が増えたということで、そのことで経済発展にも大きくつながったと、そういうことから見ても、本市としても未着工区間には力を入れるべきではないかと思うところでありまして、この未着工区間についてはどのようにお考えか、答弁をお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私も議員と同様で、未着工区間が着工区間になって新幹線の魅力、威力が発揮されると思っておりますので、今、赤信号を青信号にするということは、私もぜひこれは5市サミットの共通の課題でありますので、やっていきたい。そして、白紙になった長崎駅についても、長崎駅がポイントになります。そうった意味で、これはきちんとやっぱり話をしていく必要があるだろうと思っておりますけれども、いかんせん報道でなされているように、小沢幹事長室がキーであります。いかにそこに持っていくかということでありまして、本当にちょっとやっぱり戸惑っていますね。ですが、ちゃんと話を届けていくと、国土交通省の皆さんたちはそれを理解されているということについては心強い限りだと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

そうですね。事業仕分け、そして陳情仕分けということもあるそうであります。そのことで、そこがやっぱりネックになるんじゃないかなと思うところでもありますけど、しかしながら、やはり何らかの手を打って、県民と力、手を携えて、やはりそこを打開していくべきではないかと思うところでもあります。

次ですね、武雄－肥前山口間の複線化ですね、これについては今度の見通し、そして本市としての必要性、今後の対応についてお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

武雄温泉－肥前山口間の複線化の話でございますけれども、まずもって県の考え方を1つ申し上げておきます。

この間については、財産的にはJR九州の持ち物でございますので、これをどう複線化するかということ考えてあるのが、まず腹づけ方式による複線化ということを前提条件とされています。この上に立って費用負担をどう持っていくかというのが県の考え方です。大きくいきますと、県は新幹線整備事業による複線化の整備をお願いされていると。これはどういうことかといいますと、県のこの間の概算の事業費が120億円ということで見られておまして、これに対する県の支出が幾らになるかということが大きな問題ということで、県は新幹線整備でいきますと大体22億円程度の拠出と。ただ、これが新幹線にならなければ通常の第三セクター方式での整備ということになりますので、そうしますと約30億円プラスアルファぐらいということになります。さきの県議会においての知事答弁もこのところを踏まえて、なお国のほうに新幹線整備事業でできるように求めていきたいというのが知事答弁としてなされていますので、私どものほうも県とあわせて運動は展開していきたいというふうに考えているところです。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

ぜひとも力を注いでいただきたいと思います。

在来線を利用した複線化ということで、ということになりますと、ここには踏切が点在しますよね。高速鉄道に踏切というのは余り似合わないと思うところですけど、危なかですよ、200キロぐらい行くと、踏切ですね。そういうところは踏切解消ということで、私は前回も取り上げたと思いますが、踏切解消の効果は考えられないものかということでありま

す。そして、なおさらユニークな発想として新幹線を高架にして、下を34号線バイパスの2階建て構想ということをお前回も訴えてまいりましたが、その構想の考え方ですね。その検討はなされたのか、考えられないのかというところをお尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

伊藤営業部理事

**○伊藤営業部理事〔登壇〕**

まず踏切問題を1つおっしゃられましたけれども、まずもって、これは新幹線開業に伴って便数がふえた場合の踏切時間がどれぐらいになるかというのは、武雄市のホームページの「知ろう語ろう西九州ルート」というところにも実態的にはかった部分を載せております。これでいきますと、ちょうど調査が平成18年1月16日、当時の戦略課のほうで調査をしていただいた分として、北方の追分踏切での遮断時間ということで7時から9時までされています。これでいくと、現在の佐世保線が大体踏切の遮断時間が3分、新幹線が在来特急と同じスピードで走るということでございますので、大体時速130キロぐらいで1つの特急の遮断の踏切が47秒ということでございまして、これが新幹線による影響が3分8秒、合わせて6分8秒というのが1時間当たり閉まるということでございます。当然、踏切の安全性については県内の沿線自治体でつくります会議の折にも、県のほうにこの辺の検討についてはお願いをしているところでありまして、これはまた今後話を持っていくということで考えているところであります。

それから、高架化の話であります。

まずもって、何で在来線方式にされたかということをお考えますと、1つは佐賀県特有の軟弱地盤ということで、佐賀県内を高架にした場合に膨大な建設費がかかるということで、今の在来線方式というのが決定をされました。例えば、安全性をもって高架でした場合、下に道路をつくったらどうかというのは、たしかことしの3月議会に樋渡議員のほうから質問があった折にも御説明をしましたがけれども、鉄道事業法の規定では、やむを得ない理由がある場合について国土交通大臣が許可を受けること以外、鉄道線路の中に道路法上の道路はつくったらいけないということでありますので、まず物理的には無理だというふうに考えているところです。

**○議長（杉原豊喜君）**

16番樋渡議員

**○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕**

やむを得ない場合を除いては物理上無理だと、これはやむを得ない状態じゃないかと思えます。軟弱地盤ということで、やむを得ないと思えます。海にも橋をかけるんですからね、四国大橋にしてもどこにしても、あれもやっぱりやむを得ないことで橋をかけたと思えます。そいけん発想の転換ですよ、発想の仕方ですよ。とりようでどうでもとれると、とり方次

第ということで、これはやむを得ない状況ではなかろうかと。それと財政的にもと、予算的にもということですね。新幹線とバイパスと両方取りかかるよりかも1カ所でどんといったほうがコストは半分で済むと思うわけですね。そっちのほうが財政的にも無駄が省けて私はいんじゃないかと思うわけですよ。これも努力次第じゃないかと思います。

市長のリーダーシップに期待して、そこでやっぱり政権交代、今がチャンスじゃなかろうかと思うわけですね。民主党さんは徹底的に無駄を省くということで、両方一遍にいったら無駄が省けるんじゃないかと、私はそういうことを訴えるわけでございます。

市長はこれには答弁は。よかですか、お願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

いや、私もよく大胆な発想をされると言われますけれども、その100倍ぐらい大胆な発想を賜りありがたいと思います。

確かにモノレールであれば道路の上に橋上物として鉄道が走っているんですね、モノレールであれば。ただ、あれはなぜかという軽量の運送機関だからできると、軽量、軽い。ですが、新幹線の場合は物すごくもともとの鉄道の広軌も非常に重いものになりますし、箱そのものも非常に重いと、それとスピードが加わりますので安全性の問題を加えると、やはりそこはちょっと無理なんじゃないかなというふうに思っておりますので、議員の大胆きわまる御発想には本当に敬意を表します。いや、でもそういう発想はすごい大事だと思うんですよ。やっぱり我々行政だと、どうしても物の見方が固まってまいりますので、非常に考え方としては本当に素晴らしいなと思った次第であります。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

16番樋渡議員

**○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕**

重量物を上に載せられないとは当然であるということですね。私は、日本の技術力は高く評価しております。それやったら軽量化を開発するんじゃないかと思うところでありませう。

次はフル規格の考え方はないのかということですけど、よう考えてみたら、これはフリーゲージだからこっちに認可がおりたとやなかろうかと、これをフル規格で初めから言っておいたら長崎新幹線はでけんとやなかろうかなと思うわけですね。というのはやっぱりJRとしてはフリーゲージを長い時間かけて開発してきたわけですね。そして、もう今完成に近いということで、ぜひここで実践として使いたいということがあるんじゃないかろうかと、ちょうどいいチャンスだと、そういうことでこちらの新幹線が来たんじゃないかろうかと思っています。

まだ東北でも北海道でも新幹線は武雄より先に待ったところはどっさいあったんですよね。そこより先にこっちに新幹線が来たということは、このフリーゲージがあったからじゃなかろうかと思うわけです。ここのところは、今いろいろ言うてもまたオジャンになったらたまらんけんですね。フリーゲージについては、この辺でとどめておきます。

次は、先ほど2階建て構想の34号線バイパスですね、新幹線とセットでということでしたけど、さきの議会の中で29番議員ですね、固有名詞を出したら怒られるかもわかりませんので、29番議員ということで、質問の中で古賀誠代議士とのいきさつということで、非常に早期実現可能な感触ができたということでありました。ああ、よかったなと思いつたわけですけど、ここで政権交代、事業仕分けの中で、立ち消えたとじゃなかろうかなという気もするんですけど、この辺は可能性としてはどういうことに今現在なっておるんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに一部報道ではこれは見直し、凍結の対象になっているのではないかという話もありましたけれども、少なくとも岡本九州地方整備局長さんであるとか、国交省の私の同僚の官僚、公務員の皆さんに尋ねると、いいや、そんなことはないよということをおっしゃっております。これはとりもなおさず黒岩議員、そして、これについては先ほど出ました古賀誠代議士、そして国交省の太いパイプがあって、それで一気に二十数年来の北方町の思いがそこで結実をしたという認識がありますので、私はその思いを簡単に政権がかわったからといってはがせるような簡単な問題ではない。ここに6億円ついたというのは、私は国交省からきちんと話をして電話で受けております。もし、これが凍結になった場合は、同じ企画官から私のところに話があるはずですけども、その話は今のところ来ておりませんので、安心して6億円はついたというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

その太いパイプはまだつながっているということですね。パイプもう詰まったとやなかろうかにゃと思って心配しておったんですよね。（笑い声）

これは、この話は北方中央線、武雄バイパス出口から中央線までのことですね。北方中央線の区間のことですかね。そういうことですね。交通網ですから、そこはやっぱり江北バイパスから武雄バイパスまで完了して――完了てまだ着工もしとらんとばってんですね、完了して整えてこそ、やはり先ほど申しましたように効果というものは出ると思いますけど、この辺は江北バイパスから武雄バイパスまでの間というのは今の取り組みですか、ここは期

成会もありますので、期成会の進捗と今後の取り組み等があったらお答えしていただきたい  
と思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私はこの期成会の会長でありますので、大町町長さん、江北町長さんと一緒に国土交通省、  
あるいは政権与党に話をしておりますが、まだルートの発表は行われておりませんし、そし  
てルートについてもいろんなやっぱり地盤の関係であるとか、あるいは鉄道との関係である  
とか、六角川の関係とか、さまざまな問題があります。それも乗り越えながら今進めていこ  
うということは、私ども首長の間でもちゃんと期成会の中で話をしておりますので、引き続  
き要望活動は続けていきたいというふうに認識をしております。

ただ、これを待つて先ほど議員から御指摘のありました34号線のバイパスというのは、そ  
れは本末転倒でありますので、できるところからきちんとしていくということが肝要だとい  
うふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

このことはまだ残っているということで、となりますと、ドライブインとりの周辺ですね、  
交通混雑、渋滞するところですけど、498号線との取り合い、接続といいますか、その辺の  
ところは現在どのようになっているのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

旧ドライブインとりですね、ふちがみさんのところの交差点の部分については、今県と国  
と協議をしております。これもようやく先ほどの6億円ついたということが一つの引き金に  
なっていますので、非常に交渉しやすくなっておりますので、引き続きその要請はきちんと  
やっていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

その6億円の中でやってほしいと思います。

次に入りますけど、国道35号線ですね、これに対する期成会の進捗と現状ですか、その辺  
の進捗の質問をいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

国道35号線の西谷峠の付近の改良については、現在実施設計が進められております。年明けには地元説明会を開催いたします。その後は測量を予定しております、JRボックスの詳細設計協議も並行して進めてまいります。これは、とりもなおさず杉原議長を初めとする議員さんたちが国交省にやっぱり行きよんさあわけですね、ですので、これはそれこそが本当の私どもでいう市議会の政治主導だと思っておりますので、私たち行政も一緒になって国交省、あるいは県、あるいはJRに働きかけてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

山内町議の中で、杉原議長を中心として大変御苦労いただいたということでもありますけど、私もこの11年の間ずっと訴え続けてきた一人であります。ということをごここでお伝えしておきます。

そういうことで、これは自民党佐賀県支部連合会から私あてに送られてきた封書ですけど、国道35号線整備促進について、要望されているのはJR踊瀬国道橋の箇所だけでしょうか、位置図等により詳しい箇所、区間を教えてくださいという内容の封書が送られてきました。私は地図と、ここだということと、これまでずっと期成会では堂島から山内バイパスまで、鳥海までということに取り組んできたはずが何でこういうことが今ごろ送ってきたかなと思うわけですけど、たしか堂島から鳥海ですね、4キロ、その区間もずっと要望をし続けていたと思うんですけど、この辺はどうなっているのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

35号線の整備につきましては、本市は期成会をつくって今までずっとやってきております。それは、区間としましては堂島交差点から武雄と有田の境界までですね、この区間の約10キロ区間を要望しています。ただ、その中で山内バイパス区間の5キロぐらいは完成していますので、こっちの4キロと向こうの約1キロ、その分を歩道整備等、西谷峠のところのS型の改良ですね、この要望をしているというところです。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

全体的な要望をやっておられるということで、要望の仕方も影が薄いんじゃないでしょう



かね。そこの踊瀬橋梁だけのことかという疑問に思われるぐらいですから、もうちょっと全体的に腰を入れて、強くしていただきたいと思います。

そこで、次の新工業団地に移ります。

正式名称は新産業集積エリアですね、これの進捗と来年度の予定、そして、さきの議会の中で雨水処理の件の地元との調整は済んだのかというところをあわせて現在の進捗と次の予定ですね、それと地元との調整についてお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

11月末の臨時議会の折に御承認いただきましたとおり、まず財産につきましては、すべて取得を終わりました。この後、今月末をめどに県のほうに開発申請を行いたいというふうに考えています。この開発申請の許可後に工事がかけられるということになりますので、許可後に伐採、造成工事に入りたいと、そしてまた最初からの目標でございましたとおり、平成23年4月の分譲開始ということで、ここを目標に今後取り組んでいきたいというふうに考えています。それとあわせて、諸所地元との協議についてもすべて11月末をもって完了をしたということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

すべて順調にしているという答弁だったと思います。

これは工業団地ですね、成功するか否か、やはり先ほどの交通網の整備ということですね、新幹線を初め34号線、498号線、そこら辺の整備ということがかかっていると思います。そういうことで、そっちの整備のほうもやはりこっちの分譲開始に合わせて、やはり急いで進めるべきじゃなかろうかと思うところであります。

そこで、交通渋滞ということに関連して、高速道路無料化ということで、ドライブインとり、高速を出たあたりから、おりたところから渋滞ですね、この辺は無料化になったらもつと混雑するんじゃないかというところで、この辺はどういう影響をするかと、本市としてはどのように考えておいでか、答弁があったらお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

多分、企業誘致と高速道路の無料化のお話だろうというふうに理解をしていますけれども、まずもって高速道路の無料化ということになるとすれば、物流のコストについては確かに安くなるだろうというふうに思っています。ただ、現行の土、日、祭日の一律1,000円におけ

る高速道路の状況を見れば、かなり渋滞をしてくるという面からすると、時間的な短縮については不透明ではないのかなというふうに思っているところでございまして、また、運送業者の皆さんにお尋ねしたところが、逆に長距離あたりのパーキングにおける仮眠場所が今なくなっているというふうな状況で、一概に高速道路の無料化が企業誘致にプラスになるものではないというふうに思っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

さほど影響しないということですけど、今の時代に企業さん、この工業団地を選ぶとしたら、やはりそういうところも見てくると思います。やっぱり条件ですね、交通網はどうであるかと、すすつと行けるやろうかというようなところを見てくると思います。あの辺の渋滞は我々の一般の生活においても難儀しているところですから、やはり力を入れて整備に向けて努力していただく必要があろうかと思えます。

そういうことで、次の区画整理事業にはどのようにかかわってくるかということですね。今回の事業仕分けで補助金、支出金、負担金等々の撤廃、削減、縮小などありますけど、新幹線事業に絡んだ本市の新幹線の駅開通ですね、そういうことにかかわって、また区画も変わってくると思います。そういうところで、区画整理にはどの程度どのようにかかわってくるのかということをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

新幹線が来ることによる区画整理の影響というとらえ方でよろしいでしょうか。

〔16番「はい」〕

新幹線が来ることによって、区画整理事業は事業期間を25年度までということで今やっていたわけですが、新幹線が来ることによって用地買収を新幹線としては23年度までにしたいという話がありました。それで、区画整理をこのまま続けておけば23年度の段階で用地買収ができない状況になるわけですね。それでもって今回事業計画の変更としまして、新幹線に影響する今の鉄道高架が今度完成したわけですが、鉄道高架よりも南側に新幹線が来る予定でございまして、その区間を1工区として残りの北側を2工区というふうに工区分けをする事業計画変更の手続を今やっている状況でございまして。

それでもって、新幹線に影響する1工区につきましては、22年度に換地処分を終わらせて23年度の用地買収に備えるという計画でございまして。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

## ○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

事業仕分けによって区画とか、そういうところには余り影響はないということですね。

次に、六角川洪水対策ですね、これについて先月11月30日に期成会が発足されました。これまで私も7年間にわたり国交省に洪水から武雄を何とかしてくださいということで要望、陳情に東京まで市長、議長にお供させていただいて出向いたわけですけど、これまでは県選出の自民党の先生方にエスコートをしてもらっていたわけですけど、ところが今度の政権交代でだれを頼りに要望活動をするのかと、先ほど市長も戸惑っているということを申されましたけど、そういう中で、ダム建設はことごとく廃止されております。しかしながら、今回の洪水対策はある企業の大きな穴ぼこをして調整池プランということであって、これはダム建設ではないのでいいんじゃないかと思うわけであります。この議会が終われば、早速要望活動の時期となります。ですけど、聞くところによりますと、小沢さん経由の陳情仕分けにかかっていかんばとやなかかなという気がするわけですけど、陳情仕分けの対策ですね、これは市長にお伺いしたいと思います。

## ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

六角川上流の緊急避難的な調整池に限って申し上げますと、私たちは本当に運がよかったことに、石丸博前議長さんと私とまちづくり部長、3人プラス職員で幹事長室に参りました。私たちが幹事長室に陳情するのが全国で第1号だったということなんですね、そのときは小沢幹事長は党務で不在でございましたので、参議院の直嶋幹事長、参議院の幹事長が受けていただき、そこに、ああ、変わったなと思うのは、民主党の国土交通委員の皆さん、衆議院、参議院の国土交通委員の皆さんたちも同席をされておりました。そのときに、説明をしたときに、石丸前議長さんからるる橋の困っていることであるとか、武雄六角川周辺の困っていることを御自身の言葉で述べられた後に、私のほうから、いや、これはダムじゃありませんと、民主党はダムによらない治水を目指されていますよねと、これは穴ぼん、調整池でありますということを言った瞬間に、何人かの国土交通委員の方がそれに飛びつかれました。あっ、これをモデルケースにしようじゃないかということをおっしゃって、これは直嶋幹事長から直ちに小沢幹事長に上げた後に政府に伝えるということまでおっしゃっていただいておりますので、そういう意味で、恐らく民主党政権というのは、私がかいま見るに、きちんと説明をするということ、それと民主党の方針にきちんと沿っていますということを理性的にきちんと理詰めで説明ができれば、それは私はきちんと通していただけるというふうに認識をしておりますので、仕分けがどうこうではなくて、いかに私たちが合理的かつ冷静な説明ができるか、これに尽きるのではないかなというふうに思いましたので、私はそういった意味で民主党政権には期待をしております。仕分け等々は陳情仕分けとかいろいろ言われます

けれども、そういった意味では、私はさほどそんなに心配はしておりません。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

モデルとしてできるということですね。よかったです。このモデルについては、また後で触れる部分がありますけど、ダムでない、穴ぼこだと、穴ぼこといっても太かたですよ、400万立米ですね、これは今水没する地区、橋、朝日、橋下、志久、もう1カ所、あの辺の地帯の水没する量を、すっばりのみ込む量ということでもあります。このことが1年半ぐらい前から持ち上がりまして、それに先駆けて私たち常襲水害地・環境問題特別委員会という長い名前の委員会で神田川環状7号線地下調節池というところを視察、研修に行ったわけがありますけど、これは環状7号線の道路の下に延長4.5キロのトンネルを設置し、洪水時に約54万立米を貯留するというものであります。これは地下60メートルのところ、道路の下60メートルのところ、直径12.5メートル、この議場の幅よりかもうちょっと広かところの直径のトンネル、そこで54万立米を貯留するというものであります。

今武雄の計画中は400万立米ですから、規模は大きかわけですね。これは莫大な工事費をかけてあります。そういう意味からしたら本当に物すごくいい条件ではないかということで、早急に進めていきたい、また今度の要望、陳情に私もお供をしたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

そういうことで、次は水ということで、工業用水のほうに移りたいと思います。

工業用水は現在3社に供給して、給水収益として731万3,345円、これは20年度決算やっただと思っておりますけど、収益を731万円上げておりますね。平たく言えば、年間731万円の水道使用料を稼ぐのに対して、一般会計から毎年5,700万円の補助をしなくてはならない、これは何と不合理なことかと思うところであります。民間企業だったらとうの昔に倒産しておるところですね。

この5,700万円の一般会計からの持ち出しは何とかならんもんかということですが、これはもう動かんということでもあります。そしたら、売り上げを伸ばせばいいじゃないかと、5,700万円稼げばいいじゃないかということだと思うわけですが、この給水範囲ですね、若木の工業団地に限られてあるわけですね。クリーンセンターでもさきに使用することはできましたけど、これは何とかしてこの足かせですね、これを取り除くことはできないかということでもあります。足かせですね、手かせ、足かせ、網かけをやはり取り除いて、どこにでも売れる工業用水ということで売り上げを伸ばす方策はないものかと思うわけがありません。

これについては何とか手だてはないものではないかということをお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下水道部長

○宮下水道部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

工業用水道につきましては、給水区域の決定ということについては国の許可制度ということに確かになっております。その条件につきましては、給水先が明確になっていることということが条件になっておまして、現在武雄につきましては、給水エリアとして武雄工業団地という指定を受けております。

これをもっと広げられんかという話でございますが、実際に許可制度になっておりますので、具体的に使用先、使用量等がある程度明らかになった時点で給水区域の変更という手続をやっていくということになります。

ちなみに、杵藤クリーンセンターに今配水をしてしておりますが、これは緊急避難的な措置ということで、給水エリアの変更の認可ということではなくて、10%以内の雑用水使用については緊急避難的に認めるという通達がありまして、この方法によって配水をしているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

これは許可制度ですね、規制されているということで、多分不可能じゃなからうかということでもありますけど、私が申したいのは、この許可制度、規制されておる部分の網かけを何とか努力ができないものか、取り除くことができないかということでもあります。できんけんがしょんなかもんねじゃなしに、何とかやろうとしたらできるんじゃなからうかと思うわけですね。やはり今がチャンスじゃなからうかと思うわけです。民主党さんの事業の仕分け人ですね、例えば市長が仕掛け人となりますね。そしたら、事業というのはやっぱりなりわいであり、高木議員はなりわいと言われます。私はそこでこれを事業の業をわざと呼んで、やはり仕掛け人のわざというもので何とかならないものかと思うところでもありますけれど、市長はここは何とかならないものでしょうか。わざあり一本でわざを見せていただきたいんですけど。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

議員の御指摘、問題点は我々もよくわかっておりますし、これは武雄のみならず全国的な課題になっています。私どもより東北のほうがさらにこれに対して問題であるというのは、全国市長会でも話が出ていますので、これは全国市長会、あるいは全国知事会でもう一回ち

よっとちゃんと見直そうよと。だから、工水、水道、農水というふうに、水は一つなのに分かれているわけですね。そういったのをもう一回需要予測をして見直そうよという話も一部出ておりますので、そういったことを私一人だとわざとになってしまいますので、みんなで解決をして、市長会なりリーダーシップをとって国に働きかけていきたいというふうに思っております。これは結構各省も同じことを言っています。ですので、もう少しちょっと時間があってきちんと精査をできれば、それは統一した要望になると思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

16番樋渡議員

**○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕**

武雄だけかと思ったら、よそもこういうことがあるわけですね。私は質問してよかったです。よそもあったらやっぱり、よそも一緒にこういう制度は取り除いてくれと思うとんさあはずやけんですね。そしたら、1人で言うよりも数人で訴えたほうが効力が上がると思いますので、ぜひともこれには市長はリーダーシップを発揮していただきたいとお願いして、次に移ります。

次は、農林商工ですね。農業問題ということで、民主党の打ち出す戸別所得補償制度、これは農家にも積立金方式ということで自己負担を求めるということですね。それで、地方自治体にも財源負担を求めるというものでありますけど、これは主に米作で一定規模以上の農家とあります。これは、このことに対して本市の対象農家、これに当たる対象農家はどのくらいあるのか。自治体の財源負担とかに関してはどのようにお考えか、答弁をお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

今回の民主党政権によります農業政策でございますが、先ほどありましたように、今回まだ最終的な詳細については今週の月曜日に農政事務所のほうから我々とそれから農協のほうに説明があったわけですが、詳細についてはまだ決定をしていないということで、これについてはちょっと御理解をいただきたいと思えます。

それで、今回の大きな改正の内容でございますが、2つの柱がありまして、まずは米の所得補償のモデル事業ですね、まず米からやってみるということで、22年度は米のモデル事業、それから、もう1つが自給率の向上対策事業、この2本が大きな柱となっているようでございます。

そこで、今現在一番気になるのが米のモデル事業の中で生産に要する費用と、それから、販売の価格の差を補償しましょうという制度ですので、この価格、金額がまだ決まってないということだそうです。これが一番気になるところです。

それから、農家の方が今心配されているのは、負担の問題もありますけれども、今までず

っと育ててきた集落営農のあり方、それから対象の農家がどういうふうになるか、先ほどの質問でありましたが、それが今までは集落営農とか、あるいは認定農業者、そこら辺に醸成があっただけなんですけど、そこら辺の対象の農家をどういうふうにするか、それから、もう1つは調整水田の扱いですね、そういうことで、いろんなまだ詳細の詰めを要する部分がありますので、まだ私のほうから中身について言える段階にございませんので、詳細が決定次第、集落営農あるいは地元の方、農家の方への的確なPR、周知をしていきたいというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

ここでもやはりモデル事業というような言葉が出ましたけど、これはこの制度はベースアップ中心の一定規模以上の農家に限るということであります。中山間地農家の行く末は一体どうなるのかと思うところであります。そういうところで、中山間地農家ということは狭地倒し事業というのが20年度にありました。この狭地倒し事業、これは橋の上野地区でモデルとして実施されたということを知っております。その後、何となく立ち消えたかなと思う、立ち消え状態にあるわけなんですけど、その後この制度はどうなったのか。モデルの後に設置したところがあったのか、その後の設置実施状況とか、その辺について伺います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お尋ねの狭地倒し事業でございますけれども、これについては、先ほどありましたように平成20年度で上野地区でモデル事業を確かにやっております。それで、21年度から23年までの3年間で、これについては国の補助事業で、名称が農地有効利用支援整備事業ということで、これは市が直接事業をする分でございますが、ことしの区長会を通じてそういう要望をうちの農林のほうでとっております。20カ所程度の要望があっただけなんですけど、ちょうどその後、災害が発生しまして、災害のほうに農林商工の職員が対応するというので、どうしてもこの事業に取り組むことはできないということで21年度は断念をしております。そういうことで、あと2年ありますので、来年、再来年、そこで事業をやっていきいたいということで考えます。

ただ、この事業は国、県の枠がありまして、武雄市が幾らぐらいとれるのか、その枠次第で事業ができるということで、枠の確保に今から全力を尽くしたいというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

モデルの後に水害ということで、水害対応で途切れたというようなことであります。モデルだけで終わるとはちょっとモデルにならんし、試食だけして、ああこれはうまかったけんが、こいば10箱くださいとも、試食だけでありませんと言われたと一緒ですね。これはちゃんとモデルがあったら、後に続くものがあるからモデルじゃなかろうと思うわけです。それにかわる事業としては農地有効利用ということで、これは国がかかわってくるということです。国がかかわったら、ちょっとこいも危なかつころもあるなあ思うわけですね。そういうことで、ちょっとやっぱりここでも事業仕分けは農業にも影響してくるんじゃないかと思えます。

次の商工業観光ですね、これについては、どのような影響があるのかということをお伺いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

商工観光関係につきまして、具体的に今国のほうの補助金関係で仕分けにかかっているという情報はありません。ただ昨日ですか、今度の緊急の2次補正なんかを見てみますと、特に今非常に景気が冷え込んでいるということで、特に中小企業とか、そういうことに力を入れておくところがございますので、そこら辺については、担当としては期待をしているという状況でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

16番樋渡議員

**○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕**

今のところは余り影響はないというようなことで理解したいと思えます。

私は、先ほど交通網ということで訴えておりますけど、今、日本経済というのは中国のほうに目を向けているんじゃないかと思えます。お隣の福岡県ですね、ここでは博多港と中国慶州の貿易に力を注いでいると聞いております。九州と慶州の貿易、これが盛んになるということは本市の経済発展にもやはり影響があるんじゃないかと思うわけでありまして。そういう意味で、やはり先ほどから申し上げていますように、新幹線、国道34号線、35号線、498号線ですね、ここでも強くこれらの整備を要望して、次に移ります。

次は、たばこ税の値上げですね。これも打ち出されておりますけど、たばこ税が税収として20年度で3億7,800万円ですかね、本市の税収となっておりますと思えます。これが値上げになったらどういう状況になるのか。たばこをやめる人がふえて売り上げの減少等もありましょうし、たばこ農家は本市にはないと思えますけど、たばこの小売店ですね、この辺のところはどのような影響になるのかと、どう見ておられるのかということをお伺いします。

**○議長（杉原豊喜君）**



大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

たばこ税、今のところ3円前後というふうな報道がされております。直接、自治体としては、これが税収にどう響くかというのが一番関心のあるところでございますけれども、それとあわせて今議員おっしゃるように、今非常に禁煙化が進んで、それとタスポの関係で小売店でこの消費が減っていると、それに増税がどう反映するか、これはまだちょっと我々も判断がつかねますけれども、何らかの影響はあろうかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

タスポのときでもやはり影響があったと聞いております。

次は子ども手当ですね、これが子ども1人に対して2万6,000円を支給するということがありますけど、現在まだはっきりしていないと、段階的ということじゃないかと思えますけど、これに地方自治体負担ということも民主党さんは視野に入れておいでのようですけど、本市としては地方自治体負担ということはどうにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

子ども手当につきましては、来年度22年度から導入が予定されております。この財源につきましては、各報道機関等でさまざまな情報が取りざたされておりますけれども、まだ決定に至っていないのが現状であります。

地方自治体に負担があるというふうなことでの質問と思えますけれども、まだ国、県から情報も入っておりません。市への負担があるか否かは現段階では把握していないのが現状でございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

現状としては、そのようなところと思います。

これは私は以前にも提案しましたが、またこれもユニークな提案ですけど、ここで無理して1人2万6,000円の支給をするよりも、義務教育の期間、給食費を無料にしましょうと言うたほうがまだよかと思われませんか。給食費の滞納ということで不公平とか、そういうことにもなっておりますけど、不公平の解消をというようなことにもつながると思うのでありますけど、余りユニーク過ぎてどうかと思えますけど、この辺はどうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先般の議会でも給食費の滞納等について御質問があつたりしておりますが、市内に限っては、ほとんどの方が滞納なく払っていただいているという状況であります。考え方としてはあろうかというふうに思いますけれども、現状ではそういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

2万6,000円現金で渡すよりも、支給するよりも、私はそのほうがよっぽどいいんじゃないかと思うわけでありまして、これは私の考えであつて、次に移ります。

次は、これまたずっと11年間言い続けてきたことですが、市道西山線を延長して下山線に接続ということでもありますけど、県河川武雄川改修との絡みで、なかなか進捗が見られないところでもあります。ここの進捗というのは見たらわかりますけど、今淵ノ尾橋ですか、あそこのかけかえが終わりました。その後、上流ですね、これが市道西山線につながる道路ということで、昨年か一昨年から市としては工事が終わったら市道と認定のできる状態ということで用地買収までは終わっていると思ひますけど、この辺の状況についてお伺ひします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員御指摘の道路につきましては、確かに用地買収は済んでおるわけですが、県事業の武雄川河川改修事業ですね、これがまだ若葉台団地の下のところの橋ですね、あそこの工事をしているという状況で、まだその下山線につなぐところの上流側の工事がまだできていないと。ですから、その工事をするとき、用地買収も済んでいますから、それとあわせて道路をつくるといううちのほうの計画でございますので、何しろ今の段階では県の事業進捗待ちという形になります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

下流側が進捗しないということで、ということは、この箇所に到達するまでには時間的にはまだまだ長くかかるということですね。ということになりますと、これは用地買収の済んだ、終わった水田と残りは耕作してよかわけですね、耕作するわけですよ。そのときに用地買収の時点では工事するまで田んなかつくいよってよかけんがということで用地買収が終わ

ったということで、最近になってから、こい使うぎいかんということでロープば張ったということですね、ロープが張ってあるおかげで、残り農地の水管理がしにくくなった。それで、きっちりそこまでされんけんが、草刈りもしにくくなったと、機械操作にも困るし、機械出し入れにも支障を来すという地権者といいますか、耕作者のほうから声があります。これは、とりあえずまだ時間がかかるようであったら、このところは最初の状態というか、条件と  
いいますか、つくりよつてもよかですよというふうな取り計らいというですか、その辺が  
できないものかをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

県のほうと協議して、また地権者の皆さんには御返事したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

これは、ここで答弁を求めた私のほうが無理でした。

次ですね、市道石転線ということで、皆さん市道石転線もう暗記しておられますので、またやろうと言いんさあばってん、市道石転線です。これは県工事ですね、砂防工事也大詰めで、今後、県工事の仮設道路から拡幅工事に移行する段階でありますけど、1つ気がかりなのがあります。というのは、仮設道路の際に橋があったわけですね、そこは老朽化した橋だったので、大型車が通れないということで、直径1メートルのヒューム管が設置してあります。これは仮ですかと言うたら仮じゃなかということで、これは今までの状態を見ておって、これのみ切らんですよて、県の土木の職員からは、いや、大丈夫ですよと、ちゃんと計算してしとおけん大丈夫ということで、私はこれは大丈夫じゃなかって、こんくらいの量じゃなかって言うたばってんですね、そいで終わったわけですね。これは大水、水害あったら後で何とか処理しましょうということで、そこで終わったわけですけど、さきの7月の大雨でのみ切らずにやっぱりあふれ出して、道路が川となって、だあつと流れてくるわけです。

これはやはりもう完了が近いということで、県工事完了前にやっぱりこれは県のほうで何とかしてもらふ必要があると思うわけでありまして。このままでほっておかれたら雨が降るたびに市のほうで側溝を改修するか、もしくは雨のたんびに消防団が土のう袋を持って待機してもらふということになりますけど、土砂を防ぐための砂防工事で災害の種がふえたということでありまして、この辺をどのように取り計らっていただきますかね、ということは県の土木とそここのところを完了する前に、やはりそこまでやってもらいたいということを訴えてもらいたいと思うことですけど。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

御指摘のヒューム管のところですが、これは県の土木事務所に確認しましたところ、今年度で砂防工事が完了すると。完了すると県は引き揚げるわけですが、今年度工事が終わった段階でそのヒューム管についても対応するというのを聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

進捗はということも準備しておりましたけど、進捗は前でしておるところであって、目に見えており、わかっておりますので、進捗には答弁は要りません。

次、市道西山線の延長をして下山線に接続ということですね、それと市道石転線の拡幅工事、この件に関しましては、私はこれのことについて11年間訴え続けてきたところであります。これは平成12年9月にリサイクルセンター建設に伴い、地元上西山区に対して地元振興対策として約束された事柄であります。最近、もうずっと昔のことですから、執行部の方々も異動とかあって、もうほとんど忘れられている状況じゃないかと思っておりますけど、市長はこの覚書のごことは御存じでしたでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

当然行政には継続性がありますので、承知をしております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

ちゃんと引き継いでもらっておってよかったと思います。

よく言われることが、こういうことは優先順位とか必要性、緊急性とか言われますけど、やはり覚書が交わされた約束事、これは人事がかわっても、やはりずっと続けていってほしい——続けていってほしいというよりも、早く完了させてほしいということです。

そういうことをお願いしまして、これで私の質問を終わります。